



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

世間の目

旭町小学校長 道山 正史

今年の運動会は、肌寒いくらいの、運動にはちょうど良い天気となり、無事開催できたことは何よりうれしいことでした。PTA・保護者の皆様、地域の皆様にはご協力、ご支援いただき、誠にありがとうございました。また、子供たちの頑張りには、結果としてたくさんの人たちに喜びと感動を届けることになったと思います。私自身、子供たちの頑なりに多くの感動をもらいました。そのことを子供たちが感じることで大変な励みと自信につながります。自分たちも多くの人たちに励まされ、支えられているということに気づいてくれていると期待したいと思います。約3週間に及ぶ練習と当日の演技・競技がこれからの学校生活にきっと役立ってくれることでしょう。

さて、10月は遠足、音楽発表、自転車教室、総合防災訓練、移動教室、連合音楽会等々、行事が目白押しです。一つ一つの意義をふまえ、成果を上げるために、それらの準備や練習はすでに運動会の練習と平行して始まっています。これら一つ一つはみな、子供たちに学習の基礎・基本の徹底を図り、課題解決できる力をはぐくみ、豊かな心を育てるという学校の目標を達成するために行われています。学校は学ぶ場であるとともに、生活の場でもあります。学校生活を通して、自己存在感や自己実現の喜びが感じ取れるようにしていくことが私たちの責務です。ひと頃フリーターとかニートといった言葉がメディアでよく言われていましたが、子供たちが将来への夢や希望がもてるよう、キャリア教育の視点で指導していくことがますます重要になってきています。

ところで子供たちにとって小学生から高校生に至るまで、「家庭のみんなが楽しく暮らす」ことは家庭の最も大切な機能だと言われています。家庭が子供の心をいっそうはぐくむ場となるためには、家庭の中で豊かな会話があることや、家族の一員としての役割を担わせることが必要です。また昨今、子供たちの規範意識が低下しているとの指摘がありますが、この問題の背景には大人社会のモラル低下が大きく影響していると考えられます。さらに、きちんと叱られる経験が欠けていること、自分の行動には責任が伴うという自己責任の自覚がないことも規範意識の低下に拍車をかけています。「人間は生まれもった野生を暴れないように飼ひ慣らす。その方法には、欧米人は『聖書』、日本人は『世間』がある」と司馬遼太郎さんがある講演会で述べたそうです。天上の神であれ、地上の他者であれ、誰かが自分の振る舞いを見つめている。その目を意識して、視線に恥じる心があってこそ、自己存在感や自己実現の喜びも豊かに感じ取ることができ、人は成長していくということなのだと思います。